

平成27年度大学院総合学術研究科 春季総合コアプログラムが開催されました

日時 平成27年4月4日(土) 13時30分開始

場所 タワー75 (10階) T-1002会議室

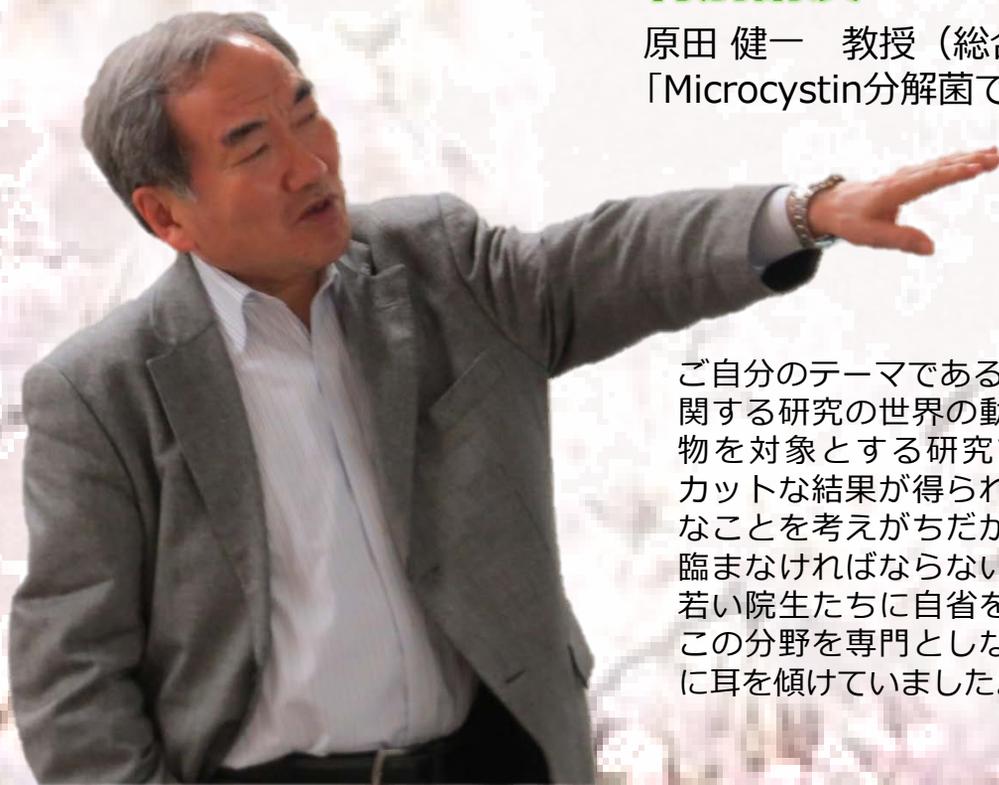
大学院総合学術研究科は、理系・文系の枠をも超え「自然と人間の共生」というテーマのもとに、教育・研究の「総合化」、「高度化」、「国際化」を推し進め、学際的な学問を身に付けた研究者・スペシャリストの養成や社会人・職業人のリカレント教育を実現するという理想のもとに設置され、全教員の意欲をもった創造と努力により、研究科の独自性を追究してきました。

今回の春季総合コアプログラムにおいては、博士前期課程2年次生、博士後期課程3年次生による中間発表に加え、大学院総合学術研究科の教員による特別講演が開催されました。

特別講演

原田 健一 教授 (総合学術研究科)
「Microcystin分解菌でいいの？」

ご自分のテーマであるmicrocystin分解菌に関する研究の世界の動向を振り返り、「生物を対象とする研究ではなかなかクリアカットな結果が得られず、つい我田引水的なことを考えがちだが、常に謙虚な姿勢で臨まなければならない」と、ご自分も含め若い院生たちに自省を促されていました。この分野を専門としない学生も、興味深げに耳を傾けていました。



博士後期課程 3年次

井土 美恵子 (人間・社会科学)
「看護教育における患者安全の教育」

これまでの博士論文研究経過全般を振り返り、「患者の安全」を最優先とする看護実践能力育成が急務であることを改めて強調しました。先生方からは、どの成果を学術誌に投稿するのかなどの意見があり、研究のペースを上げるようアドバイスされていました。



博士前期課程 2年次



山森 貴弘 (生物・環境科学)
「藻類を利用したバイオ燃料生産に関する研究」

山森君の研究は、ある種の耐塩性ラン藻が持つ遺伝子を取り出し、大腸菌や淡水性ラン藻で発現させようとするものです。順調に進んでいるようでしたが、先生方の厳しい指摘に石のようになってしまうシーンも。「次にまた同じ質問をするから」と、関連領域を含め、しっかり理解を深めておくようにアドバイスされていました。

金 海燕 (自然・環境科学)
「Microcystin分解性細菌B-9株機能解明および
その存在意義に関する研究」

金さんの研究は、特別講演をされた原田先生の内容を発展させるものです。タイトルにあるB-9株機能解明は順調に進んでいることを報告しましたが、同時に「なぜ存在するのか」を問うのは総合学術研究科ならではの文理融合的研究なので頑張してほしいとエールが送られました。



佐橋 厚亮 (生物・環境科学)
「シュガービートの浸透圧適合溶質ラフィノース・グリシンベタインの蓄積機構
に関する研究」



低温・塩ストレス応答に及ぼすラフィノースの役割を解明するのが佐橋君のテーマですが、思ったようなデータが出ず、再実験を行うことを報告しました。先生方からは研究の方法論や、このテーマを着想するに至った経緯についての疑問が出されました。受け身ではなく、主体性を持ち研究内容の周縁までも深く理解することが求められました。